

株式の状況

株式数及び株主数 (平成28年3月31日現在)	
発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	1,950,000株
株主数	644名

大株主 (平成28年3月31日現在)		
	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	990,000	50.8
セイコーインスツル株式会社	408,000	20.9
ジーダット従業員持株会	48,600	2.5
株式会社ジーダット	30,049	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,400	1.3
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	23,200	1.2
宮下英尚	22,300	1.1
MSIP CLIENT SECURITIES	13,400	0.7
高橋雅史	11,500	0.6
DEUTSCHE BANK AG LONDON-PB NON-TREATY CLIENTS 613	10,500	0.5
株式会社エスケーエレクトロニクス	9,000	0.5
株式会社図研	9,000	0.5
大日本印刷株式会社	9,000	0.5

所有者別状況 (平成28年3月31日現在)		
所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	33,000	1.7
証券会社	12,683	0.7
その他国内法人	1,425,000	73.1
外国法人等	62,000	3.2
個人・その他	387,268	19.9
自己名義株式	30,049	1.5
計	1,950,000	100.0



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル Tel : 03-5847-0312 (代)
 当冊子に関するお問合せ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

株主メモ

上場市場	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ちの場合	証券会社等に 口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内 の店舗)でもお取扱いたします。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 (http://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた、活気にあふれる日本橋です。日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

第14期 株主通信

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日





JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

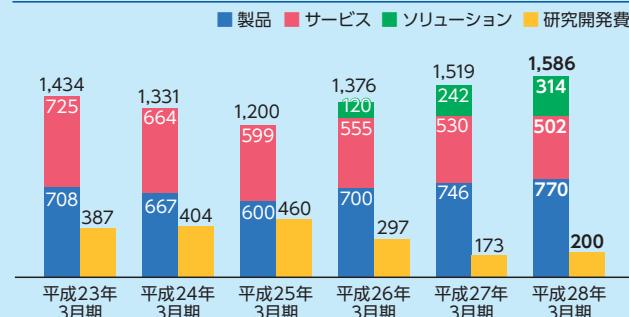
EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

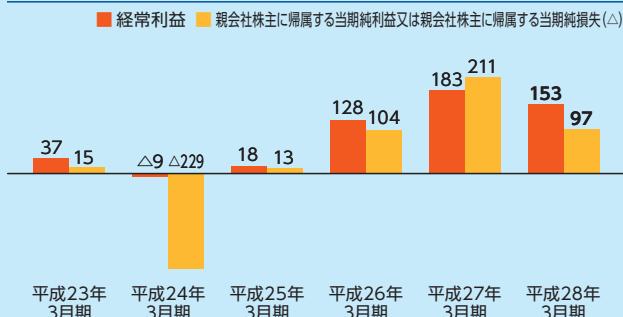
財務ハイライト

(単位：百万円)

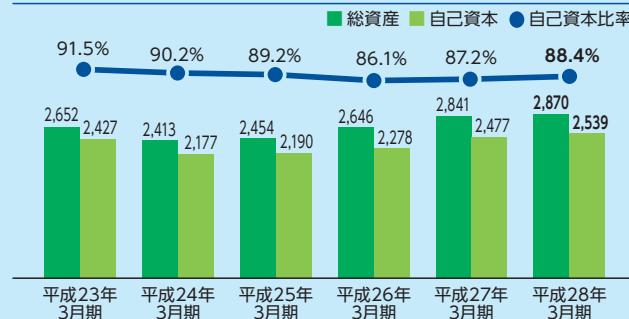
売上高・研究開発費



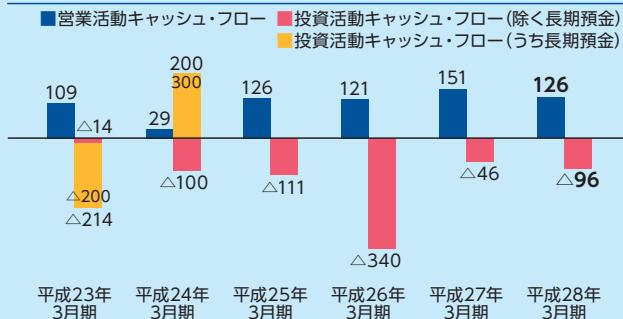
経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 (△)



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、このたびの平成28年熊本地震で被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

当第14期におきましては、過去2年続いた回復基調を継続し、より確固たるものとすべく、ソリューション・ビジネスの売上拡大や、次期主力製品であるSX-Meisterシリーズの構想発表と開発の本格始動など、積極的な売上拡大のための施策を実施いたしました。また、上海にありました販売子会社愛績受(上海)信息科技有限公司を譲渡することで、中国における販売代理店施策を見直し、固定費を削減いたしました。

こういった活動の結果、ソリューション・ビジネスおよび海外向けの売上が伸長したことにより、当連結会計年度における売上高は前期と比較して67百万円(4.5%)増加の15億86百万円となり、営業利益は1億53百万円(前期比22.4%増)となりました。経常利益は、当連結会計年度においては当社企業グループの研究開発分野が対象となる助成金事業が実施されなかったこともあり1億53百万円(同16.6%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、中国子会社出資金の売却による特別損失の計上等により97百万円(同53.8%減)となりました。

第15期に入り当社を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が予想されます。半導体業界においては世界的に低成長で大きな市場の拡大が期待できない中、国内外における大規模な業界再編成が急増しており、FPD(Flat Panel Display)業界においては特に中国を主体とする生産過剰、携帯機器需要の縮小などのインパクトで日本のメーカーも苦戦が続いております。しかしながら一方では、半導体業界において、製造装置を持たないファブレスメーカーの増加や、設

計資産であるIPコアの開発が盛んに行われており、またFPD業界においては、次期携帯機器向け有機ELの競争激化や東京オリンピックに向けた8Kテレビなど、新たな技術開発も活発化してきております。

このような状況において当社は、更なる売上拡大のための施策を行ってまいります。まず1つ目は、次期主力製品であるSX-Meisterシリーズの製品企画力、開発力の増強にリソースを集結してPDCAサイクルを確立し、年間を通じた販促プロモーションで販売活動を強化いたします。2つ目は、ソリューション・ビジネスの拡大です。業界再編による設計者の減少をチャンスと捉え、熊本事業所の人員を大幅増員して半導体設計受託ビジネスを拡大、また社内外のリソースを集結することで販売・サポート体制を確立し、EDAアウトソーシング事業を拡販してまいります。3つ目は、海外向け製品販売力の強化です。画期的な新製品であるアナログ回路合成ツール「RVT」の販売活動を活性化させ、複数代理店による顧客分野の拡大を推進してまいります。最後に、昨年より検討をはじめた新しい分野に向けたビジネス開拓につきましても、マーケティング活動や社内モニターによるノウハウの蓄積などを継続してまいります。

株主の皆様におかれましてはより一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
河内 一往

特集 開発本部 EDA開発部長に聞く

次世代主力製品シリーズ SX-Meister

2015年10月1日、ジーダットは主力製品であるα-SXの次世代ブランド「SX-Meister (エスエックス マイスター)」を発表いたしました。IoT時代に向かい、ジーダットが提案するカスタム設計における新たな設計ツールのコンセプトと売上拡大への効果について、開発本部 EDA開発部長 三浦一広に聞きました。

「SXシリーズ」とは？

ジーダット設立前の1982年から34年の歴史を持つ、ジーダットが自社開発しているEDA製品群の中核、すなわち収益の中心になっているツール群で、アナログと言われる分野のLSI、ICの回路パターンを設計するためのソフトウェアです。

今回発表したSX-Meisterではそのツール群の基盤ツール、ポイントツールの全てがリニューアルされるのに加え、匠の技術を使用した回路、レイアウト自動マイグレーションツール、業界最速の制約ドリブンパワーメッシュ配線用自動ルータが追加されます。

SX-Meisterは何が新しい？

従来のSXシリーズは、ツールを使う人が自らの設計力で設計を行うための支援ツールでした。SX-Meisterでは、ツールそのものが設計力を持っています。すなわち、「匠」と呼ばれるアナログ・カスタムICを設計するための熟練の知識がツールの中に組み込まれているので、従来人が考えていた部

分をツールが考えることになります。さらに、ツール自身が学習機能を持っているので、設計者がツールを使うごとにツールが進化していきます。いわゆる人工知能を目指しており、ツールを使って設計をするのではなく、ツールが有効活用されて設計図ができてくる、というイメージになります。

また使い勝手に関しては、SX-MeisterからスマートGUIを採用しています。将来的にタブレットやスマートフォンからドラッグ&ドロップで半導体が設計できる可能性が開けた、ということです。

設計時間や品質への効果は？

SX-Meisterの機能をフル活用すれば、設計内容や品質が同じものを設計するために要する時間は、従来の半分以下になります。当然、短縮できた時間をチェックにまわすことも可能ですから、その分の品質も向上できます。

SX-Meisterの売上への効果は？

実際に効果が見えはじめるのは2016年度の後半



以降になると思いますが、新規売上や保守契約の促進などの様々な面からの効果を総合すると、アナログLSI、カスタムIC、マニュアルの要素があるICの設計向けの売上が、最終的にはおおよそ倍になると考えています。

具体的にはどんな効果が？

今年度においては、保守契約の促進が非常に大きなポイントになると考えております。ここ数年、お客様が保守の費用を抑えたいという理由で保守契約を制限されることで、サービス売上が減少していました。SX-Meisterのリリースによって保守継続の将来性をご理解いただき、早く契約を締結していただけるのが一番の効果だと思います。事実、アナログLSI、カスタムICの設計者は減少していますが、実際に設計する製品そのものは減少していません。少人数で多数の設計をこなすためには、ジーダットの効率の良い手法のご提供による設計力の向上が、非常に大きな強みになると思います。

その他にも、国内外のデザインハウスへのSX-

Meister新規導入や、既存のお客様に対するライセンス増設のご提案を積極的に進めます。また次の段階としては、現在他社の設計ツールを使用されている設計者に対するリプレイスのご提案も行っていきます。

また、当社の九州デザインセンター熊本事業所で行っている半導体の設計受託事業においても、SX-Meisterを活用していきます。限られた人数の中で設計数を増やせるため、生産性が上がるという効果もありますし、逆に、実際の設計現場で既に実績のあるツールをお客様にご提供できるというのは、他のソフトウェア会社にはない極めて大きな利点になると考えています。

代理販売製品との相乗効果は？

代理販売製品との相乗効果は非常に高いと考えます。特に、SX-Meisterによる回路の自動設計において、デザインルールに基づき設計の妥当性をチェックしていくような仕組みにおいては、ジーダットが代理販売を行っているツールも有効に活用できる様にシステム化しています。

匠データベース機能が組み込まれるSX-Meister Ver2.0は、2016年12月にリリースの予定です。次世代主力製品SX-Meisterにどうぞご期待ください。



Meisterとは、ドイツ語でマイスター：「匠」の意味です。日本の宝である『匠の技』をフルに活用して、来るべきスマート社会を実現して行くために頑張っているという決意が込められています。

業績の概要

■売上高の増加により3期連続の営業利益増

当連結会計年度における当社企業グループの主要顧客である、国内の半導体ならびにFPD (Flat Panel Display) 等電子部品業界の業績は、総じて緩やかな回復傾向にありましたが、欧米や中国等の景気後退、円安基調から円高基調への転換、スマートフォン需要の縮小等の影響により、横ばいから減少に移行しつつあります。以前から好調であった自動車関連や携帯機器関連向け分野でも、下期に入り、成長率の鈍化が散見されるようになってきました。加えて、主要企業間で新たな業界再編が進行中であり、業界全体に先行き不透明感が広がり始めております。

このような状況の中、当社企業グループは、国内において4年ぶりとなるプライベートセミナーを開催し、革新的なコンセプトに基づいた次期主力製品「SX-

Meister」の発表や、大幅に拡充した代理販売品ラインナップの紹介を行いました。これにより営業活動範囲を、これまでフォーカスしてきた自動車関連や携帯機器関連から、新たな顧客層にも拡張して売上の拡大を図りました。ソリューション・ビジネスにおいては、国内の設計委託需要が増大する中、受注拡大に向けて設計者を大幅増員いたしました。さらに社内外のリソースを結集した結果、EDAアウトソーシング事業が本格的に始動いたしました。海外においては、国際的な展示会・学会で、画期的な新製品であるアナログ回路合成ツール「RVT」の出展および論文発表等の活動をするとともに、中国を始めとした各国代理店の大幅再編を実施して、販売力の強化を図りました。その結果、売上高は15億86百万円(前期比4.5%増)

となり、営業利益は1億53百万円(同22.4%増)となりました。経常利益は、当連結会計年度においては当社企業グループの研究開発分野が対象となる助成金事業が実施されなかったこともあり1億53百万円(同

16.6%減)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、中国子会社出資金の売却による特別損失の計上等により97百万円(同53.8%減)となりました。

■ソリューション・ビジネスおよび海外向けが大幅に伸長

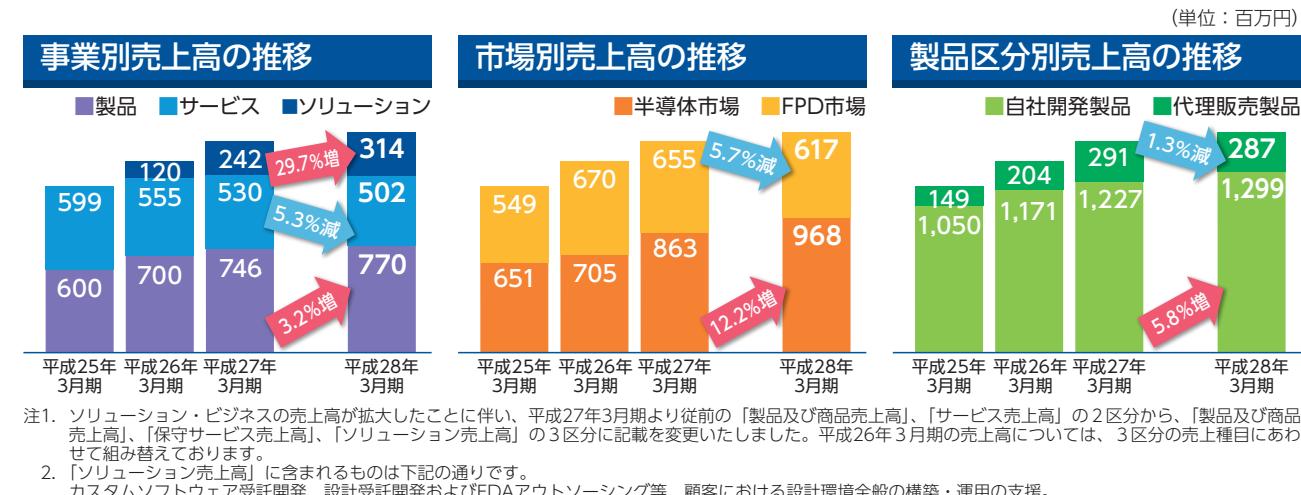
事業別では、製品売上高は、中国を始めとした海外向けに主力製品の売上高が大きく伸長し、国内においては、解析系・検証系ツール群等の売上高が堅調であったことにより、7億70百万円(前期比3.2%増)となりました。サービス売上高は、顧客企業の事業再編やリストラによる設計者の減員等の対抗策として、新機能・新ツールの追加提案活動ならびに主力製品の大幅刷新構想の発表等を展開しましたが、設計者減員による影響を全てカバーするまでには至らなかつ

たことにより、5億2百万円(同5.3%減)となりました。ソリューション売上高は、半導体設計受託サービスの売上高が、設計者の増強等により大きく拡大したこと等により、3億14百万円(同29.7%増)となりました。

市場別にみまると、半導体市場では、半導体向けのソリューション・ビジネスが伸長したことにより、9億68百万円(前期比12.2%増)となりました。液晶パネル等のFPD市場では、6億17百万円(同5.7%減)となりました。

(単位：百万円)

	平成25年3月期業績		平成26年3月期業績		平成27年3月期業績		平成28年3月期業績		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	1,200	100.0%	1,376	100.0%	1,519	100.0%	1,586	100.0%	+4.5%
売上総利益	976	81.4%	1,068	77.6%	1,065	70.2%	1,098	69.2%	+3.1%
販売費及び一般管理費	1,073	89.4%	989	71.9%	939	61.9%	944	59.5%	+0.5%
営業利益又は営業損失(△)	△96	△8.1%	79	5.8%	125	8.3%	153	9.7%	+22.4%
経常利益	18	1.5%	128	9.3%	183	12.1%	153	9.7%	△16.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	13	1.2%	104	7.6%	211	13.9%	97	6.1%	△53.8%



連結財務諸表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産	2,257,012	2,597,226
4 現金及び預金	1,918,439	1,952,460
受取手形及び売掛金	218,796	212,518
電子記録債権	28,653	22,194
1 有価証券	—	300,000
たな卸資産	25,648	3,594
繰延税金資産	26,299	24,411
その他	39,174	82,047
固定資産	584,941	273,613
有形固定資産	27,467	17,311
無形固定資産	20,202	15,895
ソフトウェア	20,202	15,895
投資その他の資産	537,270	240,407
1 投資有価証券	515,385	222,139
その他	21,885	18,267
資産合計	2,841,954	2,870,840

1 有価証券

償還時期が1年以内の有価証券3億円を、固定資産から流動資産に移動いたしました。

3 特別損失

連結子会社であった愛績曼(上海)信息科技有限公司の譲渡に伴い、26百万円の特別損失が発生いたしました。

科目	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債	326,831	330,504
買掛金	48,306	27,373
未払法人税等	12,628	8,096
賞与引当金	73,570	86,144
前受金	91,892	138,359
その他	100,432	70,531
負債合計	326,831	330,504
純資産の部		
株主資本	2,470,437	2,539,219
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	852,615	921,397
自己株式	△32,742	△32,742
その他の包括利益累計額	7,117	—
為替換算調整勘定	7,117	—
新株予約権	—	1,116
非支配株主持分	37,568	—
純資産合計	2,515,123	2,540,335
負債純資産合計	2,841,954	2,870,840

2 営業外収益

当連結会計年度には助成金収入がありませんでした。

4 現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間3ヶ月を超える定期預金9億28百万円によるものであります。

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
売上高	1,519,039	1,586,863
売上原価	453,358	488,510
売上総利益	1,065,681	1,098,352
販売費及び一般管理費	939,985	944,502
営業利益	125,695	153,850
2 営業外収益	58,371	8,087
営業外費用	356	8,788
経常利益	183,710	153,149
3 特別損失	—	26,312
税金等調整前当期純利益	183,710	126,837
法人税、住民税及び事業税	14,781	12,757
法人税等調整額	△26,299	1,887
当期純利益	195,228	112,192
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△16,181	14,610
親会社株主に帰属する当期純利益	211,410	97,581

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
平成27年4月1日残高	760,007	890,558	852,615	△32,742	2,470,437	7,117	7,117	—	37,568	2,515,123
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△28,799		△28,799					△28,799
親会社株主に帰属する当期純利益			97,581		97,581					97,581
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△7,117	△7,117	1,116	△37,568	△43,569
連結会計年度中の変動額合計	—	—	68,781	—	68,781	△7,117	△7,117	1,116	△37,568	25,213
平成28年3月31日残高	760,007	890,558	921,397	△32,742	2,539,219	—	—	1,116	—	2,540,335

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	151,565	126,421
投資活動によるキャッシュ・フロー	△46,533	△96,339
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,266	△27,683
現金及び現金同等物に係る換算差額	13,233	3,450
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	98,999	5,849
現金及び現金同等物の期首残高	919,440	1,018,439
4 現金及び現金同等物の期末残高	1,018,439	1,024,288

1株当たり情報

1株当たり純資産	1,322円54銭
1株当たり当期純利益	50円82銭

トピックス

Design Automation Conference (DAC2015) に出展

2015年6月8日から10日まで、米国サンフランシスコにて開催された第52回Design Automation Conference (DAC 2015)に出展いたしました。

今回のDACではブースにおけるデモンストレーションの他、Designer Trackにおいては、厳しい審査を通過した論文も発表することができました。アナログ回路合成ツール：RVT_CircuitSynthesisのローカル最適化について述べた論文の、「Circuit Design Method for MOS Analog-Design Reuse」は好評をいただき、ブースやポスターセッションへも、興味を持たれた多数の方々にお越しいただきました。



ジエダットブースの様子

JEDAT Solution Seminar 2015 開催

2015年10月14日(東京会場)、16日(京都会場)の2日間、当社の4年ぶりのプライベートショー「JEDAT Solution Seminar 2015」を開催いたしました。今回のセミナーでは「Smart EDA Solution for IoT」をメインテーマに、スマート社会の構築と実現に必要なIoT技術を加速させる、ジエダットの設計ソリューションをご紹介いたしました。またこのセミナーにおいて、主力製品であるα-SXの次世代ブランド『SX-Meister』を発表いたしました。カスタム設計手法を革新する匠の技を利用したSX-Meisterのコンセプトは、多くのお客様に大変ご期待をいただいております。



セミナーの様子

平成28年熊本地震により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。当社熊本事業所にもたくさんのご心配とお見舞いを賜り、心より御礼申し上げます。現時点での当社における被害等の状況に関しまして、以下のとおりお知らせいたします。

<地震による被害の有無>

・人的被害について

当社の従業員ならびに家族への人的被害はございませんでした。

・事業拠点の状況について

熊本市中央区水前寺に熊本事業所がございりますが、建物及び設備に重大な被害はありませんでした。熊本事業所は、本震後1週間ほどで業務を再開しております。

<業績への影響について>

この地震による損害及び業績への影響は軽微であります。万一、今後、当社業績への重大な影響が見込まれる場合は速やかにお知らせいたします。

会社概要/役員

(平成28年6月15日現在)

会社概要	
商号	株式会社ジエダット (Jedat Inc.)
所在地	〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル
代表者	代表取締役社長 河内 一往
営業開始	平成16年2月2日
資本金	760,007,110円
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング・半導体集積回路の設計受託

役員	
代表取締役社長	河内 一往
取締役	田口 康弘
取締役	松尾 和利
取締役	長谷部 邦雄
取締役	猪塚 武美
社外取締役	下田 貞之
社外取締役	山本 靖
社外監査役(常勤)	藤田 鋼一
監査役	中村 隆夫
社外監査役	津留 真人